

病棟におけるサリールの有用性

大阪医科大学付属病院 第2内科 三好博文

<はじめに>

病院内の空気を可能な限り清潔に保つ事は、院内感染の重要な予防手段の一つである。今回、著者らは安価で騒音発生の無い電子式空気清浄活性器「サリール」を患者病室内に設置する機会に恵まれたので、その能力を設置前後の落下菌数の多少から検討した。

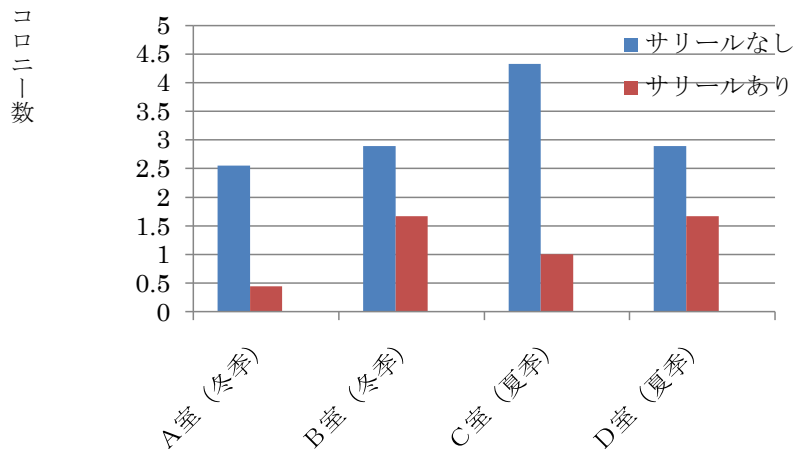
<調査方法>

患者の個室（3，8 m×2，6 m×2，6 m）壁側中央部、約1，7 mの高さに「サリール」を設置し、前後3日間の落下菌を、各部屋で同時刻に15分間開放した普通寒天培地にて測定した。

検討時期は、冬季（2～3月）夏季（6～7月）の2回、各2部屋ずつを対象とした。検討期間中は、できる限り窓の開閉を避けるように患者に協力を得た。

<調査結果>

「サリール」設置前後における病室の落下菌集落数の比較（平均値：総落下菌数／総培地数）



- (1) 冬季も夏季もほぼ同等であり、各部屋でも差が無い事が示された。
- (2) 「サリール」設置後は落下菌が約3/1に減少しており機器の有用性が示唆された。

<考察>

今回の実験から、浮遊菌は「サリール」の作用により著しく軽減したものと考えられる。白血病患者・癌末期患者を初めとする免疫性が低下した患者は、様々な感染症を引き起こす可能性があり、また、集団発生する細菌感染も報告されており、病室内はできるだけ正常に保つ必要があるが、すべての体機能低下患者を無菌室に入院させることは困難である。

「サリール」はランニングコストも含め安価である。また、発生する騒音がほとんどなく、患者の精神的負担も小である。さらに器具の容積も小であり、どのような場所にも設置可能であるなどの多くの利点があり、臨床面での応用範囲内は広いものと考えられる。